

平成24年度 和歌山県文化功労賞

なか せ ひさ はる
中 瀬 喜 陽

住 所：和歌山県田辺市
出 身 地：和歌山県西牟婁郡上富田町
生 年：昭和8年

◎業績及び経歴

昭和8年上富田町に生まれる。東洋大学文学部中国哲学文学科卒業後、上富田町立岩田中学校教諭、県立南紀高等学校教諭、大阪青山短期大学非常勤講師を経て、平成18年4月から平成24年3月まで南方熊楠顕彰館館長をつとめた。

教職中から、地方文化の研究に携わり、文化財の調査や保存・顕彰の活動、近世古文書の解読、熊野古道の調査、郷土に関わる詩歌の研究をする一方で、自ら俳人、俳句の指導者としても活躍する等、長年、多方面にわたる文化活動に尽力してきた。

中でも、南方熊楠研究に関して、その膨大かつ難解な書簡や日記の解読に早くから習熟していた氏は、南方熊楠邸と資料の保存にあたって重要な役割を果たし、南方熊楠顕彰館の初代館長に就任した。熊楠の業績保存・顕彰に力を注ぎ、関連著書として「覚書南方熊楠」「南方熊楠独白」、共編で「南方熊楠アルバム」等を記している。

また、弁慶や安珍・清姫などの伝承の生まれた背景を、平家物語や御伽草子等の説話文学を通して探り、弁慶の基盤が熊野信仰にあることを多くの資料から浮かび上がらせた。

さらに、熊野古道と詩歌との関わりにも着目し、研究・調査を進める一方で、俳句の実作者、指導者としても活躍し、会員が最大事に300人に達した俳誌「貝寄風(かいよせ)」の主宰者としても、その手腕を大いに発揮した。

このように、氏の活動は実に多岐にわたっており、長年にわたり本県の文化振興、地域振興に貢

献してきた功績は誠に多大である。

■現在

紀南文化財研究会 会長
紀南・地名と風土研究会 代表

■主な表彰歴

昭和55年 和歌山県教育研究奨励賞
平成4年 和歌山県文化奨励賞
平成11年 地域文化功労者文部大臣表彰
平成14年 田辺市文化賞